

浦中滑空部（グライダー部） 神宮大会初出場初優勝

浦中時代の全国優勝の一つに滑空部の神宮大会優勝があった。昭和12年、グライダー部のあった神奈川県立厚木中学校から赴任した大塚喜久治教頭のすすめで宇津木只平先生が部長として滑空部が始まった。（平成3年同窓会だより第33号）昭和15年9月18日、県下中等学校大会で15校中の最優秀校として11月2日の神宮大会に初参加し、ゴム索射出による「初級機訓練」部門（参加15校）で全国制覇を遂げた。右及び下の写真は浦中の優勝記事を記載した「航空朝日」（昭和15年12月1日発行）の抜粋



# 神域の空に競ふ

## 第十一回明治神宮体育大会滑空訓練

紀元二千六百年奉祝神宮大会に初めて國防競技に編制され、大空へ輝しい發足を遂げる初参加の滑空訓練大会は、秋晴の二日午前九時より青少年二百名により代々木練兵場で華々しく行はれた。

副委員長は堀中將。ゴム索射出による「初級機訓練」には全國から選り抜かれた十五中等學校に混つて、新潟青年滑空團、大阪の光帆走飛行隊、長野上諏訪滑空研究會の三産業團體と熊谷陸軍飛行學校少年航空兵の姿が大會場の目を惹く。續いて自動車捲取による「中級機訓練」には中等教員、

大學學生等五名が大空に見事な曲線を描き大喝采を博す。最後の呼び物飛行機現航の「高級機訓練」で同大牧野君、早大南君、光帆走の小田君（日本長距離記録保持者）が熱技を見せれば、折しも洲崎飛行場よりソアラ二機現航の空中列車が會場上空に飛來、曲技飛行を行つて全觀衆の手に汗を握らせた。

かくて午後一時半終了、最優秀者浦中（中等校）上諏訪滑空研究會（一般）にそれと堀中將から表彰状を授與されて、跡後若人の空への熱意を遺憾なく發揮した。

（上） 妙技を露して全觀衆を陶醉させた本社ソアラ機の着陸姿勢

（左） 練兵場上空を高度七〇米で三六〇度左旋回して、降下姿勢に移るソアラ機（中等教員、関西代表の大西榮太郎君）

この3枚の写真は、中43回仁田三夫氏撮影の昭和17~18年頃の航空部の写真。  
秋ヶ瀬での練習風景のようである。  
動力はなんと人力でゴムを引っ張っています。

